KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

時事英語研究の再考：IT時代のニュース英語

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中林, 眞佐男 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://kansaigaidai.repo.nii.ac.jp/records/5693

関西外国語大学 教育研究報告 第1号（2000年11月）
Kansai Gaidai Educational Research and Report, No.1（Nov. 2000）

時事英語研究の再考

――IT時代のニュース英語――

中　林　真佐男

1．序論

1997年度より3年間、関西外国語大学・短期大学部において「時事英語研究」（必修科目）の講座を担当してきた。しかし、新聞英語(Newspaper English)を中心に講義を展開してきたので、果たしてこの講座がどのように学生に受容れられているかの分析はしていなかった。「石の上にも3年」の喩えもあるので、本講座についての反省と再検討が必要であった。そこで、いくつかの文献や雑誌にふれ、インターネット情報を検索して、教授法を再考することにした。2000年度も4講座を担当するようになったので、手がかりとして学生に「時事英語研究―アンケート」を実施して新年度の参考にすることにした。

まず、文献調査は本学図書館の「時事英語」に関する文献を読むことから始めた。比較的発行年度の古いものがあるので、最近の文献も手に入れることにした。特に、インターネットの検索では多くのホームページにアクセスして、最新データの入手に努めた。その中で他大学の講座にもふれ、かなり進んだ内容に感銘を受け、鼓舞される所が多かった。

次に、アンケート調査の対象学生は、1999年度（セミスター制）短大2年生の2学期受講生48名、1学期受講生2名、合計50名であった。調査内容は別紙の「時事英語研究－アンケート」の通り、10項目の質問から構成されている。このアンケートの集計を行い、分析・評価すると「時事英語研究」を通じて学生の関心度を知ることができた。ただ単に英字新聞を読むだけでなく、映画やテレビの映像情報にも関心が高く、海外旅行や異文化の話しに耳を傾けていることが分かる。政治・経済の問題には関心が薄いが、社会問題をはじめ娯楽・スポーツなど生活に密着した話題に関心度が高いことも分かる。

この機会に、「時事英語研究」は IT 革命時代にあって、現状のままで良いのか再考した。この報告書の目的（または仮説）は「時事英語研究の教科は IT 時代に相応しく、新聞英語から脱皮すべき段階にあり、Current English のネーミングについても再考の時期にある。」というものである。因みに、日本時事英語学会には報道英語、メディア英語、異文化間コミュニケー

ションの研究部会などの活動がある。また、インターネットを通して新聞社・放送局のニュースが刻々と流されている。IT 革命時代に入ったので、「時事英語研究」は新聞英語だけではなく、メディア英語やインターネット英語にも視点を広げ、Current English のネーミングを変更し、原点に帰り News English へ移行することを提言したい。さらに、異文化間コミュニケーションの観点より、第２文化教育の必要性を強調したい。

２．資料の調査

2.1. 文献調査

「時事英語」と名の付く文献は戦後 FEN の放送時代から今日の IT 革命時代まで変遷を重ねながらも多数発行されてきた。今回は本学の図書館の蔵書から関心の高いもの順に目を通してみた。しかし、多くの文献は how to ものというよりは、時事英語の解説と実例文の翻訳が多いように思われる。全てを調査したわけではないので結論的なことは言えないが、私は Fredrickson T.L. 著（1989）『英字新聞の速読法』（北星堂書店）のような how to ものが教師にも学生にも大変参考になると思った。外国人によって書かれていることもあるが、手順をおって解説し、演習問題がついている点が評価できる。ただ発行年月が1989年と古いのが残念であり、この種の形態の解説書や参考書が将来多く出版されることを望む。

近著では『USA TODAY の時事米語」（DHC）が目にとまった。本書は統計データに基づいてトピックスの解説を行い、米語の特徴を述べている点に興味が引かれる。USA TODAY の記事の中で、年代層を問わず広く親しまれているコーナーが USA SNAPSHOT であり、統計・グラフ・イラストをうまく活用して生のアメリカ社会を的確に映し出している。特に、トピックスが多方面に亘り、読み物としても大変面白い内容である。「アメリカでは多くの中学・高校で、SNAPSHOT が社会・数学・科学の教材として活用されている。」（広本・宮野、1997）との指摘もあり、アメリカの教材を日本の大学に導入するのも一考であろう。

この他にも参考となる文献は多数あるが、時事英語の変遷は早いので、すぐに内容が陳腐化してしまうのはやむを得ない。したがって、常に文献、資料は最新のものを探しておく必要性を痛感した。

2.2. インターネットの検索

今回はインターネットのホームページに時間の許す限りアクセスしてみた。「時事英語研究」をキーワードにして検索すると235件のページが見つかった。その中には、時事英語研究の雑誌社や大学・研究機関の情報が含まれている。1～20件のサイトの中に関西外国語大学・短期大学部、外国語学部・英米語学科のカリキュラムや専門教育科目も紹介されていた。235件のサイトへの訪問は行わなかったが、参考になる情報が満載されている。

次に、単に「時事英語」をキーワードにして検索した情報について概略を紹介する。

（1）Yahoo の検索結果

各種資料と情報源〉辞書〉英和

・RNN 時事英語辞典－1999年 4 月以降、話題となった単語を収録。メールでの配信サービスも。

社会科学〉言語学〉言語〉英語〉教育

・時事英語－TIME の記事から毎週 1 つか 2 つを選んで解説、時事英語の勉強をしていく。

社会科学〉言語学〉言語〉英語〉団体

・日本時事英語学会（JACES）－「時事英語学研究」総目次、例会、分科会案内等。

（2）教育のホームページ

学部、研究科に 7 件、研究機関に 2 件のホームページがある。さらに、TOEFL/TOEIC、英検･工業英検、英和辞書・和英辞書、オンライン講座、企業など内容が豊富である。佐久間治の英語工房からワードゲームまで74件ものホームページがある。因みに、学部研究科の7件を紹介するので、一度訪れられるとよいと思う。これらは「時事英語研究」とは直接関係はないが、「英語教育」の参考になるであろう。

・茨城大学教育学部英語教育講座－教授や大学院生、学部生等の紹介、カリキュラム、セミナー案内等

・同志社女子大短期大学部・英米語科岩本研究室－研究概要、学生ホームページリンク集等

・追手門学院大学文学部英語文化学科－学科カリキュラム、行事、海外留学の交換制度、追手門文学会について

・聖徳学園岐阜教育大学橘堂研究室－橘堂弘文研究室英語教育・教材、シラバス等

・東洋大学文学部英米文学科・埋橋研究室－英語を読むことをテーマに、チャップリンの自叙伝等を読んだりしている活動紹介　語学的解説も

・名古屋大学言語文化部英語学科－教官や研究テーマ、学内、学外向け情報等

・南山大学外国語学部英米科松永ゼミ－講義やゼミ活動、イベント情報、学生用掲示板、研究活動について

（3）News English

さらにサーチを進めた結果、News English に辿りつけた。“What's hot today?”

「英語ニュースをインターネットで読んで見よう。」というキャッチフレーズで始まり、World News in English のタイトルで世界の有名なメディアにアクセスできる。

① 活字メディア：

Newspapers 主体の各社がマルチメディア戦略を模索中。新聞記事を提供するだけでなく、

多機能な netnews が生まれている。基本的には最新版ニュースは無料で提供し、過去の記事の検索は有料というところが多い。朝日新聞、USA Today, Times など世界的に有名な新聞のサイトにアクセスできる。

② 雑誌（Magazines）：

Newsweek の検索は、Newsweek, Washington Post , AP(Associated Press)を兼ねている。Welcome to Pathfinder は Time-Warner 社の雑誌サイトである。（TIME, Money, People, Fortune, etc.）

③ 放送メディア：

「放送原稿がダウンロードできるのは便利です。Broadcasting － Netcasting の時代変化を感じる。」という紹介文の後に、ABC News, BBC, CBC Newsworld, CNN, PBS, VOA のサイトがある。時事英語に放送英語が完全に入ってきている。

④ Search News:

ニュースの検索は、上記の新聞社、放送局などの無料検索が活用できる。しかし、electric library(USA) とデータベースの Lexis-Nexis(USA) は有料である。

（4）時事英語－TIME の学習

さらに深く検索を進めると、大変面白いホームページに出会った。Current English のタイトルをもつピカードさんのホームページであり、40,242人目の訪問者となった。「時事英語に興味のある方へ――Picard 艦長の TIME 講座」に感銘を受け、すぐに Picard さんにメッセージを送り、Current English を Media English に変える私案について相談してみた。早速次のような返事を頂いたので、了解を得て紹介する。（原文のまま）

『ご訪問ありがとうございます（^。^；英語は好きでやっております。仕事は高校生に数学を教えており、本来の専門は地球物理学です。バラバラですね（^^；確かに current English といってもネイティブには「なにそれ？」という顔をされそうですね。といって何が適切かというとわかりません。日本語でも、書き言葉と話し言葉という表現はあってもマスコミ言葉というのはないように思えます。マスコミ用語というのはありますけど。従って、“Media English” というのは、なるほど一旦は納得してしまうのですが、これをもし “Media Japanese” と置き換えてみますと、何か不自然な感じがします。ふ～む、お手上げです。』中山泰直（Picard）

Current English から Media English へのネーミングの移行を考えていたが、このチャットとインターネット上の用語を見て、原点に帰り広義な News English（ニュース英語）に変えたほうが現状に即していると考え直した次第である。

このように、「時事英語研究」のカリキュラム内容と位置付けは各大学のホームページ

で覗くことができた。また、本学のホームページもつぶさに見る機会があり、実際に担当しているので親しみながら読んでみた。要するに、「時事英語研究」はかなり多岐に亘っていることが分かる。逆に言うと、これが決め手であるというカリキュラムの内容はないのである。少なくとも、私の提言した「新聞英語からの脱皮の必要性」はこれらのホームページの内容と次の4冊の文献から支持されていると考えている。

（1）『時事英語研究』4月号（pp. 10～23）

本号を見ると「TOEIC Test 700点攻略法」が特集されている。これは時事英語研究の分野はただ単に新聞英語ではなく、英語の資格まで範疇の広まりを示唆していると思う。即ち、TOEIC の reading の練習に新聞英語を読み、listening の訓練に報送英語を活用しようという示唆である。TOEIC のスコアを上げるのは、練習問題を教えるよりも、日頃の英語力を養う方が早道であることも付け加えておきたい。

また、多くの企業が国際ビジネスを成功させるために TOEIC の成績を重視するようになり、就職や昇格の条件になってきた。したがって、学生や社会人の関心はますます高まり、本誌でも特集として採り上げたものと思う。例えば、日本 IBM は来年3月から、「TOEIC 600点以上でないと、課長職に昇進できず、次長相当職になるには730点以上必要とする」と発表している。(2000年2月22日付・朝日新聞)「英語ダメなら課長もダメ」という見出しのように、私たちは国際的なコミュニケーション能力が問われる時代に生活しているのである。

（2）『時事英語学研究』No. 38, Sept. 1999(pp. 92～94)

この報告書には新語研究分科会、教授法分科会、報道英語分科会、同時通訳分科会、異文化コミュニケーション分科会、メディア英語分科会などの年間報告が記載されている。このような分科会の名称から判断しても、本学会はいかに幅広い活動をしているかが窺い知れる。最近の学会の発表テーマも広範囲な内容になっている。日本時事英語学会のホームページを見て、さらに詳しい内容に触れることができた。

この文献調査を通じて、私の目的「新聞英語からの脱皮と新しいネーミングの必要性」は明らかに裏づけされたものと考える。私自身が学会への入会も遅く（1999年度より)、また自宅にインターネットを開設したのも昨年末であったので、これらの情報入取が遅きに失していたという大いなる反省もある。

（3）『放送英語と新聞英語の研究』(pp. 4～5)

本書には放送英語と新聞英語の相違について次のように述べられている。「放送英語は、一般聴取者を対象とした簡潔な口語英語であり、特に英語ニュースの記事構成は英字新聞の場合とは逆に、ピラミッド型構成(triangle, radio pyramid)をとっているのが普通で、

簡潔でやさしい文で原稿の書き出しが始められ、徐々にニュースの要点を伝えて行く方法が原則とされている。(小池直己、1998)

ラジオとテレビの相違もあろうが、聞いて情報を入手する点でも新聞英語とは基本的に違うのである。聞くことが条件なので、listening 能力は当然向上して行く。この違いを知り、放送英語も時事英語研究の範疇に入れねばならないと思う。

(4)『変貌するメディア英語』(p.3.)

本書の冒頭で次のような記述がある。「時事英語とは media English という意味で、新聞、雑誌など活字メディアに現われる英語である。現在、世界を流れる情報の8割は英語という常識があるが、Internet の普及もあり、media English を含めた現代英語の普及分野はさらに目覚しく広がるに違いない。』ここに至って、時事英語研究の分野に変貌が生じていることが明白になったと確信する。

3．アンケート調査

1999年度一学期・二学期の2回にわたって、関西外国語大学・短期大学部（片鉾学舎）において「時事英語研究」の講座を担当した。本学では、この講座は短大2年生の必修科目になっていて、1997年度より3年間担当してきた。本講座は単に時事英語を学ぶだけでなく、国際政治・経済に始まり、国内問題、スポーツ・芸能、科学、宗教、文化など幅広い知識を身につけることを目標としている。

3.1. 調査方法

1999年度一・二学期の2回に亘って「時事英語研究」を講義したが、二学期の最終日に別紙の「時事英語研究―アンケート」を実施した。48名の受講生が回答してくれたが、集計の便宜を計るために一学期の受講生2名に特別に回答させた。したがって、人数の差はあるが、一・二学期の受講生50名から回答を得たことになる。(資料1)

このアンケートは10項目の質問で構成され、選択式と記入式を併用した。記名式であるが、率直な意見を収集するために、匿名希望者には無記名を認めた。しかし、全員が記名し、かつ忌憚のない意見を書いてもらったと思う。評点については5点法を採用した。

3.2. 結果と評価

「時事英語研究－アンケート」の結果を集計し、項目別に作表してみた。それらの表に現われた数値より学生の関心度や観点について分析・評価をしてみた。ただし、紙面の都合で主な表だけを掲載する。

1）テキスト *International News 1999/2000* は適当でしたか？

5点法に換算してみると、3.7になるので“good”に近い評価が得られた。このテキストは新聞英語の基礎知識に始まり、見出し語が含まれていた。しかし、重要な略語の解説がなく、別のテキストから拝借した。次に、教授用資料には演習問題の解答の他に、各章の試訳が付けられていたので授業の参考になった。(表1：省略)

2）このテキストで一番関心をもったテーマは何か？

代表的な8章について関心度を調べた結果、Titanic に42％ も集中し、映画のもつ影響力の強さを証明した。次が、TV network の28％となり、映画やテレビといった映像情報に70％という高い関心度のあることが分かる。そして、ほぼ半数以上の学生が、実際に「タイタニック」の映画を映画館または自宅のビデオで見ていた。時事英語研究の授業でも映画のビデオやテレビ番組を見せると効果的であると考えられる。(表2：省略)

3）講師の話題・雑談の中で、面白いと思ったものは何か？(いくつでも良い)(表3：省略)

「海外旅行」の39％が圧倒的な人気度である。これに「異文化の話し」の16％を加えると実に55％という半数以上の数字となる。これは「異文化間コミュニケーション」のアンケート結果でも、学生は「英語が上手に話せ、海外旅行に行っても自由に交流でき、自分の目標を果たしたい。」(中林、1999) ということに要約できたが、これと酷似した傾向が見られる。

次に、「社会人の心構え」に24％の関心があった。これは2回生なので、特に就職活動に役立てる目的で、若干の資料を配布して多くの示唆を与えている。ただし、アメリカ英語と地図や TOEFL/TOEIC についてはあまり関心はないのは（それぞれ6％)、この時期は就職活動や3年編入に関心があるためと思われる。人種差別は5％と最低であった。

4）課題「新聞記事の翻訳」の内容を詳しく書いてください。(表4：巻末に資料2として掲載)

この課題は「学生の最も関心のある英字新聞の記事を自由に見つけ、その記事を切り抜いて全文を日本語に翻訳し、感想文をつけて提出する」というものである。講義の開始のとき、前年度のサンプルを回覧して予告しているので十分時間がある筈である。しかし、期末の提出期限にならないと作業をしていない学生がかなりいることが良く分かる。ワープロを歓迎しているが、今のところ約2割の学生しかワープロを使っていない。この割合はもっと増えて欲しいといつも願っている。

学生の選んだ英字新聞は国内外の9紙にも達し、この中でやはり日本で編集発行されている一般英字日刊紙が含まれていた。即ち、多い順に *The Mainichi Daily News*(16) *The Japan Times*(11) *The Daily Yomiuri*(9) *The Asahi Evening News*(5)の4紙であり、全体の82％を占めている。英文のタイトル、新聞名、日付、感想文を書かせたが、このデータを分析して表4にまとめてみた。基本的な新聞名と日付記入を忘れている学生が数名いた。予めレファレンス

の方法を教えておく必要性を痛感した。感想文は長いので省略する。

記事の内容をまず「海外」と「国内」に仕分けした結果、38％対62％と国内問題の方が多かった。これを、政治、社会問題、ビジネス、宗教、スポーツ、娯楽、広告の７項目に分類した。これは正式なものでなく、ある英字新聞の紙面を参考に分類したものである。この結果、社会問題が44％を占め、いわゆる三面記事（社会面）に関心が高いことが分かる。次に、娯楽・スポーツと続き、政治、ビジネス、宗教の順となった。結論的に「政治・経済よりも、社会問題や娯楽・スポーツに関心が高い」ことが証明された。ここにも「学生の政治離れ現象」を見ることができる。

学生の読解力を尋ねた「④自分の読んだ英字新聞は何％ぐらい理解できましたか？」の質問の合計が76％と高い率になった。学生は記事を見て、理解できる範囲の比較的やさしい記事を選んだとも思えるが、この数字より学生の新聞記事の読解力はかなり高いと評価できる。

５）時事英語で一番参考になったものは何ですか？一つだけ選びなさい。

表５

ランク	質　問	人数	%
1	④英字新聞の難しい英語の勉強が出来た。	27	54%
2	①世界のニュースに触れられた。	13	26%
3	②日本のニュースに触れられた。	7	14%
4	③就職試験や面接上の参考になった。	3	6%
5	⑤その他：	0	0%
合計		50	100%

この質問は学生のニーズを考慮して作って見たが、その他がゼロなので①～④の４項目に集約できると思う。１位は「④英字新聞の難しい英語の勉強が出来た」の44％であり、この講座の目標にそった結果が得られたようである。２位の「①世界のニュースに触れられた」は26％も占めている。普段は世界のニュースには関心はないが、この講座を通して学生の見識が少しは高まったと考えて良い。これに対し「②日本のニュースに触れられた」は14％と低いのは恐らく新聞・テレビで既知のニュースが多いためだと考えられる。最後の「③就職試験や面接上の参考になった」は６％と極端に低いが、講義の目的とはかけ離れているので、当然かもしれない。３)の「社会人の心構え」のところで満足されているようだ。

６）ビデオの上映は参考になったか？

中間で生抜きのために、ディズニー映画「美女と野獣」を見せ、後半の授業中に２回に亘って「CNN ニュース」のビデオを見せた。前者は娯楽性があるので、good=68％の人気だったが、後者は僅かに32％が good と評価しただけである。それぞれ感想文を書かせているが、ディズニー映画については「もっとビデオを見たい」、「英語も分かりやすい」という大方の意見である。

しかし、CNN ニュースは「話すスピードがはやくて英語が分かりにくい」「中国人など英語圏以外の英語は少し理解できる」「テーマによって関心のないものもある」などの意見がある。これを参考に、次年度からビデオの使用はかなり慎重に行いたいと考えている。(表6：省略)

7）日本の経済を回復させるために、今何をすべきと考えますか？(いくつでも良い)

表7

ランク	質　問	人数	%
1	④経済界がもっと頑張り、生産性と購買力を高める。	20	27%
2	①総選挙をやって、国民の意見を政治に反映する。	19	26%
3	⑤日本の教育全般を見直し、抜本的に改革する。	19	26%
4	②今の連立政権をやめ、新しい枠組みで出直す。	5	7%
5	③規制緩和をして、日本の市場を世界に公開する	5	7%
6	⑥その他：	5	7%
合計		73	100%

表7の項目は学生の政治に対する関心度を尋ねたものである。1位の④と2位の①、⑤に約80%も集中した。この内容を要約すれば、「今こそ総選挙をやって、教育改革と経済の活性化を図るべきである」と言っているように思う。学生は一般国民同様に鋭い視点や意見を持っていると考える。②連立政権と③規制緩和はそれぞれ7%に過ぎず、極めて政策的な内容なので低い評価であった。要するに、この就職難の時代にあって、学生が「政治を変え、教育の改革に取り組み、日本経済を回復してほしい」と願うのは当然である。時事英語研究を通して、政治・経済・教育問題をもっと深く議論し考えさせることも重大な課題であると痛感した。

その他学生の書いたコメントで分かるように、学生は具体的な意見を持っている。例えば、タバコ税・消費税の見直しを訴えている。海外の意見を取り入れるべきと言う意見に対し、日本人はもっと独立して、自分の意見を持つべきと言っている。

7）この講義で良かった点と、悪かった点を箇条書きにしてください。

筆者にとってこの項目が最も参考になる質問である。良い点は外交辞令的なものもあり、むしろ悪い点を指摘された方が傾聴に値する。比較的率直なコメントが多く感謝している。しかし、紙面の関係と個人的な意見なので詳細は省略する。

因みに、評点を5点法で算出すると、4.12という評価を得た。これは、「やや良い」に該当し、幸いにも「やや悪い」と「悪い」がなかった。講義の完璧は期待できないとしても、この評点を刺激として新年度に臨みたい。

9）講師へのメッセージがあれば、自由に書いてください。10）最後に「自分の将来の夢や目標について」簡単に書いてください。この両項目は、個人情報なので省略する。

欄外で、今回は立ち入って「進路」と「パソコン」のことを参考までに聞いてみた。

進路：①就職決定＝17名(24%)　②内定＝８名(16%)　③未決定＝17名(24%)　④３年編入＝８名(16%)　⑤その他＝０（０%）という結果を得た。就職希望者名は84%であるが、未決定が４人中１人いることは今日の就職難をそのまま浮き彫りにしている。

パソコン：「あなたは自分のパソコンを持っていますか？」の質問に対し、①Yes＝15名(30%)、②No=21名（42%)、③検討中＝14名（28%）という結果である。３人に１人がパソコンを持っているのは、かなりの普及率である。しかも、検討中を加えると58%と過半数に達する。社会人になると、すぐにパソコンを使う仕事につく人がほとんどである。したがって、学生時代よりパソコンに馴染むよう今後も指導して行きたいと考えている。なお、e-mail アドレスを持っている学生が13人(26%)であり、パソコンをもつ人はメールやインターネットを楽しんでいると推測できる。近時、一部の学生とメールを交換し、連絡や指導に役立てるようになってきた。

以上がアンケートの集計と評価であるが、「時事英語研究」を通じて学生の関心度を知ることができた。ただ単に英字新聞を読むだけでなく、映画やテレビの映像情報にも関心が高く、海外旅行や異文化の話しに耳を傾けていることが分かる。政治・経済の問題には関心が薄いが、社会問題をはじめ娯楽・スポーツなど生活に密着した話題に関心度が高いことが分かる。さらに、日本経済に関するコメントを求めて行くと、具体的な意見を述べている。最後に、就職、留学や編入など個人の将来についても聴いてみたが、就職は４人に１人が未決定であった。なお、パソコンの普及度も年々増えていることが分かった。

４．時事英語研究の考察事項

時事英語研究の講座をさらに充実するために、筆者の直面したいくつかの問題について再考し、いくつかの個人的な見解を述べて見たい。

4.1. 時事英語のネーミング：

戦後「時事英語」と言えば、Current English が一般的であり、新聞・雑誌の英語を指してきた。『ニュース英語入門』によると、「この時事英語は日本では英語で current English というが、本来、欧米で current English といえば現代英語一般を指し、ジャーナリズム英語は journalistic English という。また、普通より簡素化されたジャーナリズム独特の表現を多少皮肉を込めて journalese ということがある。」（天野葉生、1999）と要約されている。また、外国人には「現代の英語」と解釈されていると言われる。

しかし、新聞英語を newspaper English と言ったり、これにテレビ・ラジオも加わり、mass media も視野に入れて 報送英語として media English という言葉もよく使われている。しかも、今日ではインターネットで情報を入手しているので、Internet English についても考

慮すべき時代である。しからば、時事英語の定義は「新聞・テレビ・ラジオなどのマスコミ情報の他にインターネットを通して得られるニュースを総称した英語である」と言わねばならない。実際問題として、インターネットで news English が自由に読め予約すれば英字新聞のバック記事が読める時代に入ったのである。

この時期に「時事英語」を英語でいかに表現するか一考に価する。英字新聞を Newspaper English と限定的に表現し、mass media、Internet 上のニュースに関する英語を便宜上総称して News English と言う案は如何なものだろう。媒体に違いはあっても、その情報はニュースに関するものであり、そこに使われている英語という意味である。いずれにしても、私たちが馴染んできた Current English は漠然としていて、この IT 時代に相応しい名称を再検討する時期にあると思う。また、日本時事英語学会の英語名も再考した方が「名は体を表わす」と愚考する。

4.2. 時事英語テキストの評価

筆者は「時事英語研究」を初めて担当した時、出版社より時事英語の範疇に入るテキストを取り寄せ、新聞英語の学習から始めた。しかし、どのテキストも100%満足するものでなく、毎年思考錯誤しながら、より学生に分かりやすく、解説や付録の内容が充実したテキストを選んでいる。過去3年間に使用したテキストは次の通りであり、寸評を加えてみたいと思う。

1997年度：

正村佳紀著（1998）NEWSPAPER ENGLISH『新聞英語』大阪教育図書

〔評〕1988年初版から改訂第5版（1998）となり、内容が洗練されてきている。特に、時事英語の基礎知識はコンパクトに纏められているので解説しやすい。時事英語練習問題も学生の参考になっている。ただ、記事の中身がやや古く、教授用資料の中に記事の試訳がなかったので、自分で日本語に翻訳する手間がかかった。付録に略語と見出し用語がついていて、テスト用に大変役立った。

1998年度：

宮野智靖著（1998）『USA TODAY で学ぶ時事英語入門 1998』開文社出版

〔評〕本学の宮野先生から紹介され、以前より USA TODAY に関心があったので即決できた。このテキストは「米国最大のそして唯一の全国紙 USA TODAY を通じて、アメリカ及び世界の生の姿を読み取って欲しいという願いから生まれたものである。」（宮野智晴、1998）米国紙なので15ユニット全てがアメリカ国内外のトピックスであり、世界に目を向けることができた。「ウィンブルドンのテニス」や「コカコーラとペプシーの広告戦争」などの話題には大変な興味があった。特に、練習問題が充実していたので、学生に人気があったと思う。即ち、Multiple Choice Question, T/F Questions, Vocabulary, Translation, Summary, Conversation Prac-

tice と内容が豊富であった。特に、語い(vocabulary)と英作問題(translation)は定期試験に必ず出していた。また、付録として、A見出し用語、B略語、Cカタカナ語、D基本時事用語に32頁も割かれていたので使いやすかった。A、Bは重点的に覚えさせ、かつテストした。

ただ、教授用資料の中に、記事の日本語訳がなかったが、これまで要求するのは酷かもしれない。宮野先生は他にも多数のテキストや本を書いておられ、著書の素晴らしさに敬服すると共に今後のご活躍に期待したい。本学の廣本和司先生との共著に、『USA TODAY の時事米語』（DHC 発行）があり、大変ユニークな内容は前述の通りである。

1999年度：

西村晴雄著（1999）『国際報道の英語 1999/2000』三修社

〔評〕本書選定の理由は、Introduction の解説が簡明であり見出し用語も含まれていたこと、目次がうまく分類され内外の記事がうまく配置されていたことの二点であった。即ち、Mass Media, Human Rights/Human Interest, International Politics, Domestic Politics, Science/Technology, International/Economics, Scandal/Incidents, Sports, Environmental Threats であり広範囲な話題をカバーしている。ユニットの最後に、「ニュースの背景」が日本語で解説されているので、英文記事を読む前の内容理解に役立つ。練習問題は内容把握、穴埋め問題だけで、ごく一般的であったが、Vocabulary Build-up は語彙の増強に少しは役立ったと思う。

このテキストの教授用資料には記事の日本語訳が付けられていて、教える時の手助けになった。しかし、逐語訳をしていくと、誤植や訳の抜けている個所が発見された。テストに出題するユニットに限って、この訳文をコピーして配布しているが、この訂正個所だけは口頭で伝えている。これも学習の一つの方法である。

以上の3冊は全て Notes に重要単語の日本語が付けられていたので、語彙の習得に役立てた。総合的に完璧なものはないので、必ずハンドアウトで補う必要がある。例えば、最新の新聞記事、雑誌からの参考ページなどである。また、テキストの進行は早く出来ないので全部の記事は読めないという悩みがある。時事英語研究の授業は多読が良いに決っているが、学生の理解度を増すには精読の方が良いと考えている。

因みに、2000年度の本学における使用テキストは浅野雅巳・岡部朗一著（2000）*World News Today 2000/Spring*『世界ニュース展望2000春季号』（金星堂）である。本書の選定理由は、①巻頭と巻末に世界地図がある、②新聞英語の基礎知識が極めてコンパクトに纏められている、③見出し用語と略語の頁がある、④本文の記事には解説と Notes がつている、などであったので参考までに付記する。

5．結論と提言

今回のアンケート結果と評価の内容より、「時事英語に対する学生の関心度」を知ることができ、結論として次の5項目に要約できる。

1）テキストは「良い」部類に評価されたが、テキストの内容を補う付録が大切である。
話題性のある映画やテレビの映像情報を求め、講師の話題は海外旅行と異文化コミュニケーションに関心が高い。

2）英字新聞を翻訳する課題では、国内の代表的な4紙が採択されている。人気の話題は社会問題が半数近くもあるが、政治・経済問題には関心が極めて薄いことが分かる。これは「若者の政治離れ」を証明していると考えられる。

3）半数以上の学生が、時事英語の講座から「英字新聞の難しい英語の勉強ができた」と回答した。時事英語独特の表現や見出し語、略語も難しいので新しい知識も増え、就職試験にも役立ったものと確信する。ビデオ上映は内容の吟味を要すると考える。

4）就職難の時代に入り、学生は政界・経済界・教育界に多大な期待を寄せていることが分かる。すなわち、「今こそ総選挙をやって、教育改革と経済の活性化を図るべきである」と要望している。このように、学生は聞かれるとはっきりとした意見を述べている。

5）最後に、この講座の評価は辛うじて「良い」という数字にはなった。しかし、良い点・悪い点や教師に対するメッセイジも参考にして、講義内容の充実を図っていきたいと思う。
学生の関心度に対応した教材の選択と話題の提供が肝要となるであろう。

結論として、学生のアンケート調査の結果を纏めると「映画やテレビの映像情報に関心を示し、コンピュータやインターネットを始めている。時事英語研究の教科を通して、国内外のニュースを英字新聞で吸収し、難しい時事英語を何とか読みこなして、語い力の強化や知識の向上に努めている様子が覗える。海外旅行や異文化に関心度が高いが、海外よりも国内の社会問題に関心が多く、政治・経済問題には疎遠である。そして、就職戦線には厳しいものがあるが、政界・経済界・教育界が一体となって日本経済の回復を図って欲しい。」と訴えているように感じる。日本の学生は自分の意見を普段は述べないが、アンケート形式で意見を書かせると、結構しっかりとした意見を持っていることも分かるのである。

これを踏まえて、学生の関心度に対処するためには、「時事英語研究はただ単に英字新聞を読むだけでは不充分であり、今日のIT革命時代にあってもっと広い観点にたち、テレビ・ラジオの報送英語・メディア英語、インターネット英語などを含めて、ニュースを読むことからニュースを見て・聴くことに拡張した教科にする必要がある。」と考える。勿論、このための教材の拡充が要望されるのは当然である。

今回は文献調査とインターネットの検索を行って、資料調査もやってみた。この結果、時事

英語の文献は刻々と変化していて、すぐに陳腐化して行く。それに対して、インターネット上のニュース英語や情報は刻々と作られ、つねに最新情報を提供してくれている。リンクされているサイトを含めると、かなり膨大な情報量となり世界の新聞社や放送局を網羅しているので利用価値はますます増大している。

21世紀を目前にして、私たちは新聞英語だけに留まらず、メディア英語、放送英語やインターネット英語を研究する時期を迎えたのである。これを可能にする教材やツールが勿論必要であるが、パソコンの普及率も急ピッチで進んでいるので、明るい展望を持って教授法の改革を行って行きたいと考える。

本報告書の結論として、冒頭に挙げた目的「時事英語研究の教科は IT 時代に相応しく、新聞英語から脱皮すべき段階にあり、Current English のネーミングについても再考の時期にある。」は資料の調査と学生のアンケート調査の結果で十分裏付けられたと思う。

最後に、この講座のあり方の反省も含めて、次のように具体的に提言しておく。

1）新聞英語と報道英語

3年間も時事英語研究を担当しながら、新聞英語を中心に講義を展開してきたことが反省点である。しかし、テレビ・ラジオで報道されるニュース英語も加える時代になっている。報道英語の分野も加えたより広い範囲の講義が要求されている。因みに、インターネットで他大学の「時事英語」の講座を覗いて見ると、「異文化コミュニケーション」「国際政治・経済」“TOEIC”などを取り入れた講座も散見できる。また、ゼミナール形式の講座にしている学部もあり、研究グループを作っておられる所もある。このように、インターネットも視野に入れて、時事英語研究を発展して行く時代にあると痛感した。

2）時事英語の教材開発

3年間で使用したテキストは考察事項の中で紹介したように、百点満点のテキストは存在しない。どうしても副教材に依存して、講義の充実を計る必要がある。極端に言えば、テキストは全く使わずに新聞記事、文献、ビデオなどをうまく配置して講義を進めるのも一考であり、現にそのように進めておられる先生もいると思う。時事英語研究は多くの大学でも伝統的に教えている割には、この分野のテキストはあまりウェイトが高くなく、数も少ないように感じる。この原因は「時事英語」という狭い範囲に拘泥しているためである。もし、今日の学生のニーズに合わせて編集するとすれば、少なくとも新聞英語から脱皮した内容が求められる。すなわち、新聞英語、雑誌英語(magazine English)、報道英語（News English)、インターネット英語など全てのマス・メディアに出てくる英語を網羅する時期に来ていると思う。「朝の新聞は読まないが、テレビのニュースやインターネットで時事問題を勉強する」人類がますます増えてきている。このような教材は英語の4技能を養うのに役立つと考える。

特に、リスニングの能力をこの講座でも養えば、TOEIC/TOEIC のスコア・メイキングにも貢献するであろう。多岐に亘る教材の開発を出版社に望むものである。

3）Current English から News Englishへ

日本時事英語学会は1959年に発足以来、時代の推移とともに発展し、1999年９月現在で会員629（普通会員＝612名、賛助会員＝12組織）の全国的な学会組織を誇っている。今日のIT 革命時代に即して、いくつもの新しい研究発表や研究会の報告がある。例えば、本部の放送英語研究、時事英語教授法、関西支部の同時通訳研究分科会、異文化間コミュニケーション研究分科会、メディア英語研究分科会などがある。

このように、多角化した研究を行う学会であるだけに、考察事項の２）で述べた如く、日本時事英語学会は JACES(Japan Association for Current English Studies)と称し、依然として Current English を使っているが、これが時代に適合しているかどうか一考に価すると思う。これは歴史的な用語なので、簡単には変えられないと思うが、ここに提案した News English を使うと仮定すれば、JANES（ジェーンズ）という洒落た略語となり、語呂も良くなるように思う。昨年本学会に入会したばかりなのに、このような提言をするのは僭越と思うが、時代の流れに呼応するために敢えて発想した次第である。これから会員を増やすには、案外このようなネーミングと学会の取り組んでいるテーマの PR が関連してくる気がしてならない。少なくとも、報送英語、メディア英語、異文化間コミュニケーションなどの分科会がもっと強調されていくことを提案する。

4）異文化の視点からの教育

ニュース英語は世界の文化の発信でもある。異文化理解が言語習得に役立つことが指摘されるようになった。*Culture in Second Language Teaching and Learning* の巻頭で次のように述べている。「応用言語学者や語学教師はその言語が話されている地域の文化に言及せずに、第２言語や外国語は学び得ないことにますます気付いている。第２文化(second culture)を第２言語の学習者が理解することは、その人の文化的に定義された世界観、信条、前提条件に基本的に影響される。これらの信条や前提条件は第２言語の教育と学習に配慮すべき重要な教育学的な意義と必要性をもつ。」(Eli Hinkel, 1999)

本書の中で、James P. Lantolf(1999) は *Second Culture Acquisition* と題する論文を発表し、「第２言語の学習と教育において、第２文化の学習は文化に対する自己認識を増大させる。しかし、大人が他文化を獲得できるプロセスに関する研究は未だ少ない。」と指摘している。ここで強調して置きたいことは、この第２文化を習得したとしても、自文化を放棄することではない。例えば、日本人が外国語を学び、その文化を習得したとしても、決して日本文化を捨てることにはならないのである。

ニュース英語はその国の文化背景を理解した上で、初めてその記事の深層に迫れると思う。したがって、ここに指摘した「第２文化の学習と教育」は早急に考究すべき重要課題であり、比較文化論や異文化間ミュニケーションの講座とも関連付けた展開を行う必要があると思う。この問題については、さらに研究課題として追求して行きたいと考えている。

本稿は「時事英語研究」の授業の報告に過ぎないが、色々と問題提起して行くと際限がない。今回の簡単なアンケート調査で、時事英語に対する学生の関心度が明らかになった。また、資料調査、とりわけインターネット上のホームページは時事英語研究に数多くの教材を提供してくれることを体得した。したがって、学生の関心度に適応した教材の準備と話題の提供を心がけて、2000年度の講座に臨みたい。そして、学生による発表形式と討議を導入し、インターネットの検索を指導して行きたいと思っている。本報告書に多くのご批判とご意見を頂ければ幸甚である。

註記：この報告書作成にあたり、本学の藤井健夫教授に総括的なご指導を仰ぎ、インターネットによる情報検索をアドバイス頂き役立てることができた。また、日本時事英語学会の問題については、会長の黒島哲郎教授のご意見を詳しく拝聴できた。ここに両先生に対し、衷心より感謝の意を表する次第である。

引用文献

天野葉生（1999）『ニュース英語入門』研究社出版．pp. iv～v.
小池直己（1998）『放送英語と新聞英語の研究』北星堂書店．pp. 4～5.
黒島哲郎（2000）JACES NEWSLETTER.　No.72.　日本時事英語学会．p. 1.
中林真佐男（1999）『異文化と人種差別問題』「関西外国語大学・研究論集」第70号　pp. 445～462.
広本和司・宮野智晴（1997）『USA TODAY の時事米語』DHC.　p. 1.
巻口勇次（1999）『時事英語学研究』No. 38.　日本時事英語学会．pp. 92～94.
宮本倫好（1999）『変貌するメディア英語』三修社．p. 3.
浦田未央（2000）『時事英語研究４月号』研究社出版．pp. 10～23.
Lantolf J.P.（1999）Second Culture Acquisition. In Eli Hinkel（ed）*Culture in Second Language Teaching and Learning*. Cambridge University Press. pp. 29. 39.

引用ホームページ

中山泰直（Picard）　(http://www.ne.jp/asahi/yasunao/picard/current1.htm)
日本時事英語学会　(http://www.asahi-net.or.jp/~db6a-sby/reikai.html)
News English　(http://www.tky.3web.ne.jp/~yjo/english.html)
時事英語研究　(http://search.yahoo.co.jp/.../search?p)
時事英語　(http://search.yahoo.co.jp/bin/search?p)

資料１：時事英語研究―アンケート
資料２：Newspaper English Report（表４）

資料１：時事英語研究―アンケート

時事英語研究―アンケート

1999年度の講義を終わるに際し、来年度の参考にしたいので学生諸君の感想・意見を聞きたいと思います。該当する番号に○印を付け、率直な意見を書いてください。

1）テキスト *International News '99/2000* は適当でしたか？
　1．very good　2．good　3．average　4．poor　5．very poor

2）このテキストで一番関心をもったテーマは何か？
　(1)Titanic　(2)TV network　(3)Jiang and Clington　(4)Pope urges Cubas
　(5)Ota rejects　(6)Obuchi forms　(7)EMU　(8)Suker Punch　(9)others

3）講師の話題・雑談の中で、面白いと思ったものは何か？(いくつでも良い)
　1）異文化の話　2）海外旅行　3）アメリカ英語と地図　4）TOEFL/TOEIC
　5）人種差別　6）社会人の心構え　7）その他＿＿＿＿＿＿＿＿
　(具体的に)

4）課題「新聞記事の翻訳」の内容を詳しく書いてください。
　①英文のタイトル：＿＿＿＿＿＿＿＿
　②新聞名：＿＿＿＿＿＿＿＿　日付：＿＿＿＿＿＿＿＿
　③感想：＿＿＿＿＿＿＿＿
　④自分の読んだ英字新聞は何％ぐらい理解できましたか？　＿＿＿＿＿＿＿＿％
　(数字)

5）時事英語研究で一番参考になったことは何ですか？　一つだけ選びなさい。
　①世界のニュースに触れられた。
　②日本のニュースに触れられた。
　③就職試験や面接の参考になった。
　④英字新聞の難しい英語の勉強が出来た。(略語・見出し語など)
　⑤その他：＿＿＿＿＿＿＿＿
　(具体的に)

6）ビデオの上映は参考になったか？
　A．美女と野獣：　1．good　2．average　3．poor
　　理由（　　）
　B．CNNニュース：1．good　2．average　3．poor
　　理由（　　）

7）日本の経済を回復させるために、今何をすべきと考えますか？(いくつでも良い)
　①総選挙をやって、国民の意見を政治に反映する。
　②今の連立政権をやめ、新しい枠組みで出直す。
　③規制緩和をして、日本の市場を世界に公開する。
　④経済界がもっと頑張り、生産性と購買力を高める。
　⑤日本の教育全般を見直し、抜本的に改革する。
　⑥その他：＿＿＿＿＿＿＿＿
　(具体的に)＿＿＿＿＿＿＿＿

8）この講義で良かった点と、悪かった点を箇条書きにしてください。
「良かった点」

「悪かった点」

評点：　①大変良い　②やや良い　③普通　④やや悪い　⑤悪い

9）講師へのメッセージがあれば、自由に書いてください。

10）最後に「自分の将来の夢や目標について」簡単に書いてください。

進路：　①就職希望　②海外留学　③3年編入　④未決定　⑤その他

◎あなたは自分のパソコンを持っていますか？　①Yes　②No　③検討中
◎e-mail アドレスがあれば：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ご協力ありがとう。再見！　　2000年1月28日

資料2－表4
Newspaper English Report

	<海外・国内の別>		< 内　訳 >							
newspaper	海外 foreign	国内 domestic	① politics	② social	③ business	④ religion	⑤ sports	⑥amuse-ment	⑦ ad	total
1.Japan Times	3	8	1	6	1	1	2	0	0	11
2.Japan Times Weekly	1							1		1
3.Mainichi Daily News	6	10	2	4	2	2	1	4	1	16
4.Daily Yomiuri	3	6		7			1	1		9
5.Asahi Evenig News	2	3	1	3			1			5
6.Asahi Weekly	1							1		1
7.週刊ST		1		1						1
8.US News & World Report	1			1						1
9.Pacific Sunday News	1						1			1
10.unknown	1	3	1		1	1		1		4
Total	19	31	5	22	4	4	6	8	1	50
%	38%	62%	10%	44%	8%	8%	12%	16%	2%	100%